九州観光ビジネスプランコンテスト 2023

事業計画書

提出日　　年　　月　　日

学　校　名	九州産業大学		
学部・学科名	地域共創学部観光学科		
チ ー ム 名 （個人参加の場合は任意）	おこのみやき	エントリーNo.	58

1. 取り組みテーマについて（なぜこのテーマに取り組んだのか）

・現状および課題認識

・現状

人気の観光スポットは観光客、海外からの注目度が増加しているのにも関わらず、交通の便が悪い（ここでは糸島を事例にあげる）

車あり	車なし（バス移動）
天神　9時	**天神　9時**
↓40分	↓2時間16分
白糸の滝　9時40分(20分)	**白糸の滝　11時20分**(20分)
↓40分	↓2時間6分
茶屋の大門　10時40分(50分)	**茶屋の大門　15時30分**(50分)
↓	↓
食事　11時30分(60分)	**食事　15時30分**(60分)
↓20分	↓1時間30分
櫻井神社　12時50分(40分)	**櫻井神社　17時**(40分)
↓5分	↓20分
二見ヶ浦　13時35分(20分)	**二見ヶ浦　18時20分**(20分)
↓1分	↓5分
パームビーチ　14時(60分)	**パームビーチ　18時45分**(60分)
↓50分	↓1時間26分
天神　15時50分	**天神　21時5分**
↓	↓
レンタカー代9時～17時	**公共交通機関利用で**
4,700円を利用者で割って	**一人当たり3460円**
一人当たり2350円	

（図1）

左図(図１)は糸島氏の主な観光地を車を利用して観光した場合と、車を利用せず公共交通機関のみで観光した場合の地点ごとの所要時間と経費を表した図である。

天神から出発して天神まで戻ってくることを前提として車がある場合は１６時ごろに帰ってくることができレンタカー代が 4,700 円だとして同行者と割ると一人当たり 2,350 円となる。

車なしで公共交通機関を利用して移動となると天神まで帰ってくるのは 9 時ごろになり一人当たり 3,460 円となる。

よって車を利用したほうが効率よく安く観光ができると考えられる。

・現在の取り組み（糸島）

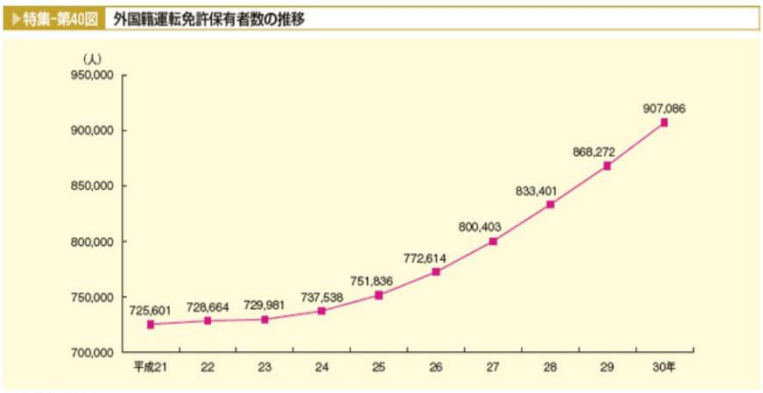
・シャトルバス

・レンタルサイクル

↓

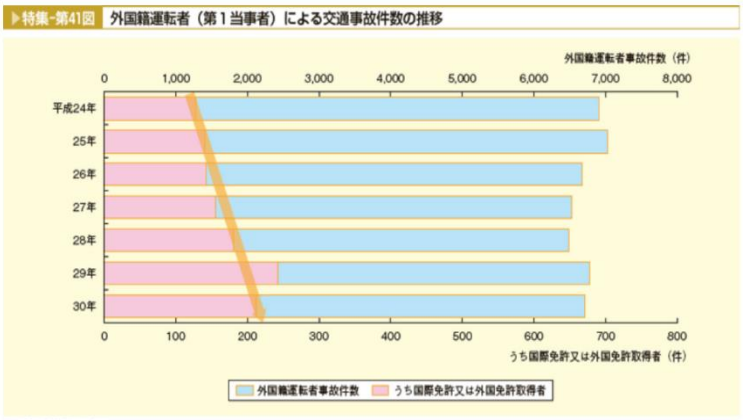
人手不足により本数を増やせていない現実

→不慣れな地での運転は危険を伴う(図2・図3)



注 警察庁資料による。

(図 2)



注 警察庁資料による。

(図3)

(図 2)は外国籍運転免許保有者の推移を表している。図にあるように外国籍運転免許保有者数は年々増加しており、平成 30 年の時点で 90 万人を超えている。
(図 3)では外国籍運転者による交通事故件数の推移を表しており青グラフの外国籍運転者事故件数のうちピンクのグラフが国際免許または外国免許取得者であり、こちらも年々増加していることがわかる。

https://www8.cao.go.jp/koutu/taisaku/r01kou_haku/zenbun/genkyo/feature/feature_03.html#:~:text=%E5%A4%96%E5%9B%BD%E7%B1%8D%E9%81%8B%E8%BB%A2%E8%80%85%EF%BC%88%E7%AC%AC,%E7%89%B9%E9%9B%86%2D%E7%AC%AC41%E5%9B%B3%EF%BC%89%E3%80%82

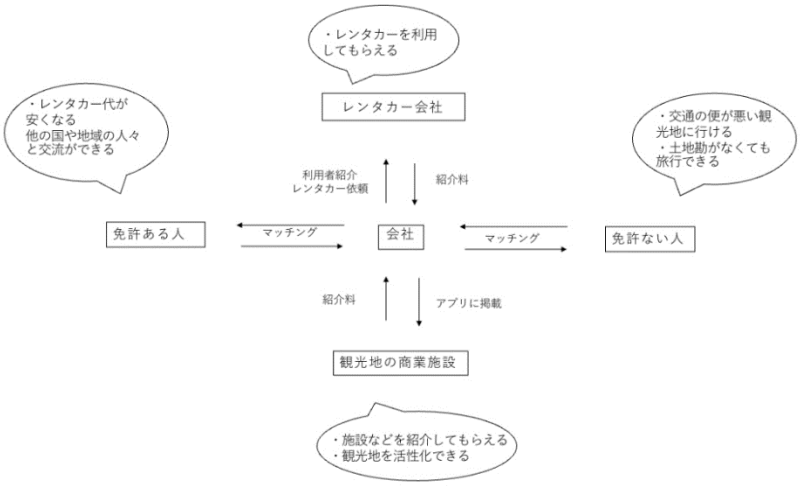
2. 課題解決に向けた新たなアイデアについて

私たちはマッチングレンタカーという事業を提案します。これは車で観光したい！けど、免許を持っていない、土地勘がなく運転が難しいという観光客と運転できるよ！土地勘あるよ！という人たちをマッチングし、一緒にレンタカーに乗って観光してもらうという事業です。
例えば、外国(英語圏)から来た観光客(免許、土地勘なし)の観光客と英語の喋れる日本人(免許あり、土地勘あり)の人たちがマッチングした場合、1 日を共に過ごすことで、観光客は有意義な観光ができ、日本人は英語の勉強や楽しい時間を過ごすことが出来ます。

3. 九州や地域社会への影響について
・地域社会(糸島)への影響
交通の便が悪い→車で効率よく回ることが出来る
車での観光客の増加による交通渋滞→台数を減らすことが出来て徐々に解消していくことができる
インバウンド対応の遅れ→インバウンドに対応できる人手不足の解消
観光バスの運転手やガイドの不足→新しいガイドの在り方の提案
滞在時間の短さ→車で効率よく回る事で一つ一つの場所の滞在時間を伸ばすことができる

·九州への影響
現代で流行しているマッチングサービスを利用することによって気軽に外国人を含めた観光客が訪れるかとができ、九州観光のきっかけとなる。

4. 事業化に向けたビジネスモデルについての具体的な紹介



①レンタカー会社の協力を仰ぐ
メリット：レンタカーの利用率が増える

②観光地の商業施設との提携、もしくは補助金活用(令和 5 年度糸島市にぎわい回復チャレンジ事業補助金) https://www.city.itoshima.lg.jp/s047/020/010/160/300/20211209160111.html
メリット：観光客が増えるに伴い消費額も増え活性化に繋がる

③アプリ作成

5. 事業化後の目標、継続可能性や将来のイメージなどについて

持続可能性や将来のイメージ
まずは、糸島での利用を進める。目標は九州全体での利用が出来るようになること。
例・阿蘇、沖縄、天草等